

同時通訳ブースより
世界で活躍できる Neurosurgeon を目指して



▶ 日本脳神経外科同時通訳団の活動

伊達 勲^{1, 2)} Isao DATE

1) 岡山大学大学院脳神経外科教授 〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1
2) 日本脳神経外科同時通訳団団長

はじめに

日本脳神経外科同時通訳団はユニークな補佐組織として、日本脳神経外科学会学術総会やコンgres総会、および subspecialty 学会の同時通訳を担当しています。通訳団のメンバーは、全国の脳神経外科専門医で、現在約 70 名で活動しています。私は 2003 年からこの組織の団長となり、それぞれの学会の会長と交渉しながら通訳団員を派遣し、おもにシンポジウムでの日英の同時通訳を行うことによって、外国からの招待演者が日本人の発表あるいは質問を理解し、スムーズに討論に加われるように努めています。

本稿では、私たちが行っている活動、夏期研修

会の様子や同時通訳のコツを紹介し、若手の脳神経外科の先生で英語に興味を持たれている方が、夏期研修会に参加し、将来の同時通訳団を目指すきっかけとなれば、と思います。

シンポジウムでの日英同時通訳

学術総会やコンgresでは、多くの外国人講演者がシンポジウムの演者に入っています。われわれの役割は、彼らが日本人のプレゼンテーション（日本語）を同時通訳を通して理解し、座長やフロアからの質問や討論（通常日本語）にスムーズに答えられる、あるいはコメントができるようにすることです。また、外国人講演者の講演自体は英語なので、その間は standby 状態で控えていて、質問・討論になると、日本語での質問を英語に同時通訳してそれに英語で答えてもらうことです。

学会場の後ろに同時通訳のブースが設置してあるのを見られた先生も多いことと思います。パシフィコ横浜のメイン会場のような大きな会場では、会場の上のほうに同時通訳のブースがあり、われわれはそこから会場のスライドを見ながら、同時通訳の音声をヘッドセットを通じて外国人講演者に送っています（図 1, 2）。

スライドでのプレゼンテーションの同時通訳は練習によりかなり自信を持って行うことができる



図 1 ブース内での筆者



ようになりますが、最も緊張するのは、外国人講演者の講演のあと、日本語での質問を外国人に同時通訳するときです。いったい何の質問をされるかまったく予想がつかないので、それまでのプレゼンテーションの内容自体を理解している必要があります。まさに「脳神経外科医」としての「同時通訳」の実力が試されるときでもあります。ふだんから、脳神経外科のあらゆる分野に関して興味を持っていないと、同時通訳はなかなか務まりません。何しろ、言葉を訳す、というだけではなく、内容を訳さなければならないのですから。

同時通訳団夏期研修会

毎年7月に同時通訳団の夏期研修会を行っています。同時通訳団団員が自らの英語をブラッシュアップする機会であり、さらに、若手の脳神経外科医で同時通訳に興味ある先生に参加してもらい、シニアメンバーで評価して、新しいメンバーを決める、たいへん重要な研修会です。

Traineeの先生方には、同時に開催される、日本脳神経外科国際学会フォーラム (JNEF) で英語のプレゼンテーションをしてもらいます。この

プレゼンテーションに対しては、native speakerにコメントをお願いするようにしています。そして、同時通訳のトレーニングとして、脳神経外科の各分野（腫瘍、血管、基礎研究など）の日本語のプレゼンテーションを英語に同時通訳する練習を本格的な同時通訳ブースを使って約3～5時間行い、その間、traineeの通訳内容をシニアメンバーが採点し、最終的にその点数によって、1名ないし3名程度の新しい同時通訳団員を決定しています。図3は、トレーニングの方法についての説明を参加者が聞いているところですが、ご覧のように後ろに4つの通訳ブースが設定してあります。

初めて参加される traineeの先生方には、同時通訳団の生みの親である浜松医科大学脳神経外科名誉教授の植村研一先生から毎回厳しい指導をいただいています。現在の同時通訳団の団員は全員、植村研一先生の情熱的で厳しい指導を受けて同時通訳をマスターしてきました (図4)。

同時通訳団夏期研修会とJNEFは毎年同時開催されており、日本脳神経外科学会のホームページの「関連学会開催案内」をご覧ください。2012年は7月27日と28日に金沢で開催されます。



図2 ブース内のセッティング

ブースは、会場の上のほうにあり、スイッチャー、マイク、ヘッドセットに加えて、スライドが映る液晶モニターが設置されている。



図3 夏期研修会の様子

参加者が研修の方法について説明を聞いている。会場後ろには研修に使う同時通訳ブースが4つ設定されている。

同時通訳のコツとブースの中のあれこれ

脳神経外科同時通訳団が行っている同時通訳には、プロとは異なる特徴が多々あります。言葉を言葉として訳すプロの同時通訳者とは違って、同時通訳する内容が、専門とする脳神経外科領域であり、プレゼンの内容自体を通訳者が理解でき、場合によっては内容を予測することすら可能な場合もあります。こんな特徴を生かしながらいかに同時通訳を行うかのコツを、植村研一先生がこれまで私たちにいろいろ指導してくださいました。それを私たちも trainee の若い先生方に伝えていくようにしています。また、同時通訳のブースの中で思わぬ経験をすることもあります。いくつかをご紹介します。

1. 頭から訳す

プロの通訳者は言葉を頭の中にキープするトレーニングをしているとのことですが、私たちはそ

のような芸当は困難で、まずは聞こえてきた文章を頭から訳すことに全力を注ぎます。文章をフレーズに分けて前から訳す、少々文法が変でも聞いている相手は同じ脳神経外科医なのですから、理解してもらえます。Regarding とか、As for を使って、まずは出てきたフレーズを、「～に関して」と訳し始めるわけです。

2. 動画ではポインターを必ず追う

脳神経外科のプレゼンテーションでは動画がよく使われます。このとき、演者がポインターで説明しますが、このときだけは、それまでの訳をやめてでも、必ずポインターで指した解剖的構造などをすぐにその場で訳すことが肝心です。ポインターで指した部分の名前をずれて訳すとまったく意味がなくなるからです。

3. サイレンスは避ける

同時通訳につまんで、黙ってしまうと、外国人



図4 植村研一先生による同時通訳のコツの講演
毎年、初めて参加する先生方に対して、植村先生から直接指導をいただいている。



3. サイレンスは避ける

同時通訳につまんで、黙ってしまうと、外国人は、たいへん気になります。意味の理解できない日本語が聞こえているのに、イヤホンからは何も聞こえない、これが一番彼らを不安にさせます。もし、一つの単語に詰まってメンタルブロックに陥っても、次のフレーズをどんどん訳して、サイレンスだけは避けるようにしています。

4. チームプレーが肝心

同時通訳は必ず2人以上で行います。1人が通訳をしている最中は、横の1人はその通訳を聞きながら、何かあったらすぐに交代できるよう準備しています。演者と座長がやりとりをする場面では、通訳のほうも交代しながら2人で通訳すると、声色が変わってわかりやすいことがよくあります。また、ペアの通訳者が言葉に詰まったとき、横で聞いているほうは「岡目八目」状態で、すぐに臨時交代をして危機を脱することもあります。

5. 脳神経外科のあらゆる分野に興味を持つ

同時通訳をするときに最も役立つことのひとつが、その領域の内容をよく知っていることです。場合によっては次のスライドで何が出てくるかの予測さえ可能ですし、質問者の顔を見たときに「あのことを聞くだらうな」とわかってしまう場合もあります。うまい通訳をするには、脳神経外

科の広い領域の勉強が欠かせないと思います。

6. 同時通訳しやすいスライドとプレゼンテーションは理解もしやすい

同時通訳では、スライドが切り替わった瞬間、数秒内に内容を把握する必要があります。そのため、スライドの見やすさに、たいへん関心が強くなりました。バックの色と文字の配色が見やすい組み合わせになっているか、十分な大きさの文字を使用しているか、などです。また、原稿を棒読みするプレゼンテーションは通訳泣かせですが、聴取者に語りかけるようなプレゼンテーションは同時通訳しやすく、それは同時通訳団だけでなく、すべての聴取者に理解しやすいプレゼンテーションとも言えると思います。

英語に興味のある若手脳神経外科医のみなさんへ

私たち同時通訳団の活動について、報告いたしました。若者が外国へ行こうとしなくなった、とよく報道されていますが、脳神経外科医は外国への留学に積極的な人が多く、また、英語にも関心の高い人が多いと思います。どうぞ同時通訳団の活動に興味を持って、夏期研修会に参加し、JNEFで英語の発表をしてください。皆様に夏にお会いできますことを楽しみにしております。